

高知の医療・福祉を考える (その5)

高齢化社会をどう設計するか。

医療法人山本会理事長 山本浩志氏
救急病院「南国中央病院」
老人保健施設「夢の里」
訪問看護ステーション「南国」
在宅介護支援センター「まほろば」
ボランティア「命のペンダント」

わが国も本格的な高齢化社会をむかえました。そこで
老年期の望ましい生き方と、それを支える福祉制度や市町村のあり方について
南国中央病院院長・山本浩志氏にお話を伺いました。また
厚生省が現在進めているゴールドプランや介護保険についてもお話を伺いました。



山本 浩志氏

高齢化社会の到来と
幸せの限界。

今回のテーマは「高齢化社会を
どう設計するか」ということですが、
先生はわが国の高齢化社会の到来を
どのように考えていますか。

わが国の平均寿命が八十歳になっ
て、高齢者は限られた人々の余生とし
てではなく、高齢者が現実のもの
として真剣に考えなければならぬ時
代になりました。つまり老年期を
どう生きるかが課題です。

今日の高齢化社会(長寿社会)
には、ある種の豊かさがあつて、考
えてみれば私たちがより人類共
通の悲願、理想です。しかしそれが
実現して、私たちがほんとうに幸せに
なれたかという点でもない気がし
ます。これはなぜでしょうか。

ただ私はこの点に人間の本来とい
うか、悲劇があるように思います。
つまり人間はどんな理想でもそれ
を手にすると慣れるし、飽きてく
る。したがってさらなる理想目標
を求めなければならぬ。それだけ
人間の欲望や好奇心は限りがないの
で、それが故に人類はその発展を
みたとはいえます。しかし同時に現
在のものでは満足できない人間の習
性がある。実は人間の「幸せ」の境
界は、実は人間の「幸せ」を知るこ
とのない悲劇です。これからの高齢化
社会を考える上では、この点にもメ
スをいれる必要があると思います。

老いは拒否するのではなく
受け入れる方向で。

先生の考える高齢化社会のある
べき姿はどのようなものでしょうか。
これから高齢化社会がどうある
べきかは、根本的には「老い」をどう

老人ホームのあり方と
望ましい高齢化社会への提言。

老人ホームなどの福祉施設を何
度か訪れたことがありますが、そこ
に入所しているお年寄りの一日のプ
ログラムや年間の行事は幼稚園児の
それと似ていました。この点はどう思
われますか。

本来は遠慮していただきたくし
う。年をとると幼児返りがおこると言
われますが、子供とお年寄りは朝日
と夕日ぐらいの違いがあるからと
ただ具体的にどう変えるかとな
るとなかなか難しいものです。それ
に入所しているお年寄りも、歌やゲー
ムを楽しんでいます。運動やリハビ
リにもなっています。むしろ在宅の独
り暮らしのお年寄りよりも恵まれてい
るかも知れません。

「肉體は老いても、心は老いたくない」と
いう期間ではないか、心のあり方を
いう(以下略)という有名な詩
もそのことを物語っています。
しかし私はこの考えが自分がおか
しいのではないかと、肉體が
老いれば、心も老いるのが自然だ
と、お年寄りに拒否するの
ではなく、受け入れる生き方です。
幾つになっても心だけは青春である
という心のあり方は、高齢化社会
の幸せはむしろ築き上げられてい
るのでしょうか。

心が高齢者とは若さとは違つたとい
う意味で、いわば若さからの解放で
す。せめて高齢化社会が実現したの
だから、高齢者に価値観があつたの
で、高齢者、生き方、価値観があつた
と、それをこれに創っていくべき
だと思つています。今までのように若さ
へのあがれとか若者文化だけではな
く、静けさや落ち着き、それを知性的
要素のある高齢者文化の創造です。
お年寄りがいなくても若く、夢や
希望を持って生きることが悪いこと
ではないでしょうか。

悪いことよりは、それだけでは不
自然だと思つています。夢や希望は未
来志向でその本質は欲望と変わりが
ないです。いわば罪のない欲望です。
人間の一生を山登りにたとえま
すと、青春時代は山を登つていく時
期です。頂上という目標に向かって進
みます。未来に向かって進むには夢や
希望や情熱が必要で、それが故に
若さや失敗にも耐えることもでき
ます。それが青春だと思つています。

一方、老年期は山を下りてきた時
期です。頂上は目標とつらなり、二
つ目の過去であり、経験です。今さら夢
や希望というよりは、自分の生きて
きた経験をどうして、自分の一生を
見直し、集大成する時期です。
別の言葉でいえば、老年期は起承
転結の「結」にあたる部分です。そ
れが夢や希望にとられすぎると「結」
のない人生を送ることになり

ます。ただそれが人間というものか
もしれませんが、

高齢者の不安と生きがいについて
物の豊かさの心の豊かさ。

高齢者が幸せな老後を築くため
には、健康な生活に対する不安をな
くし、喜びや生きがいを持つ社会を
つくり出さなければならぬと思つて
います。

高齢者が幸せな老後を築くため
には、健康な生活に対する不安をな
くし、喜びや生きがいを持つ社会を
つくり出さなければならぬと思つて
います。

高齢者が幸せな老後を築くため
には、健康な生活に対する不安をな
くし、喜びや生きがいを持つ社会を
つくり出さなければならぬと思つて
います。

高齢者が幸せな老後を築くため
には、健康な生活に対する不安をな
くし、喜びや生きがいを持つ社会を
つくり出さなければならぬと思つて
います。

高齢者が幸せな老後を築くため
には、健康な生活に対する不安をな
くし、喜びや生きがいを持つ社会を
つくり出さなければならぬと思つて
います。

高齢者が幸せな老後を築くため
には、健康な生活に対する不安をな
くし、喜びや生きがいを持つ社会を
つくり出さなければならぬと思つて
います。

高齢者が幸せな老後を築くため
には、健康な生活に対する不安をな
くし、喜びや生きがいを持つ社会を
つくり出さなければならぬと思つて
います。

「老年期の生きかたを行政に求める」
福祉制度のあり方について。

福祉国家とは
ゴールドプランと介護保険。

福祉国家とは、福祉国家というお話が
ありますが、福祉国家とはどのような
国ですか。

福祉国家とは、福祉国家というお話が
ありますが、福祉国家とはどのような
国ですか。

福祉国家とは、福祉国家というお話が
ありますが、福祉国家とはどのような
国ですか。

福祉国家とは、福祉国家というお話が
ありますが、福祉国家とはどのような
国ですか。

福祉国家とは、福祉国家というお話が
ありますが、福祉国家とはどのような
国ですか。

福祉国家とは、福祉国家というお話が
ありますが、福祉国家とはどのような
国ですか。

福祉国家とは、福祉国家というお話が
ありますが、福祉国家とはどのような
国ですか。

親の面倒は子供がみるべきか。

たしかに在宅医療といつても、共
働者か子供が世話を、最近では親の
面倒をみるのが難しくなつてきてい
ます。親の面倒は子供がとらざるべ
きでしょうか。

たしかに在宅医療といつても、共
働者か子供が世話を、最近では親の
面倒をみるのが難しくなつてきてい
ます。親の面倒は子供がとらざるべ
きでしょうか。

たしかに在宅医療といつても、共
働者か子供が世話を、最近では親の
面倒をみるのが難しくなつてきてい
ます。親の面倒は子供がとらざるべ
きでしょうか。

たしかに在宅医療といつても、共
働者か子供が世話を、最近では親の
面倒をみるのが難しくなつてきてい
ます。親の面倒は子供がとらざるべ
きでしょうか。

たしかに在宅医療といつても、共
働者か子供が世話を、最近では親の
面倒をみるのが難しくなつてきてい
ます。親の面倒は子供がとらざるべ
きでしょうか。

たしかに在宅医療といつても、共
働者か子供が世話を、最近では親の
面倒をみるのが難しくなつてきてい
ます。親の面倒は子供がとらざるべ
きでしょうか。

たしかに在宅医療といつても、共
働者か子供が世話を、最近では親の
面倒をみるのが難しくなつてきてい
ます。親の面倒は子供がとらざるべ
きでしょうか。



森田 由美さん